

# 第20回 稲門建築会特別功労賞（業績）

こく ば  
国場

ゆき ふさ  
幸房

（苗 S38）

国建名誉会長（2016年12月逝去）

## 表彰理由

国場幸房氏は建築学科を卒業後、設計製図の非常勤講師であった大高正人の事務所に入所した。4年半の薰陶を受け、それが建築家として歩む基礎を築いた。

1967年故郷の那覇に戻り、兄幸一郎が設立した株式会社国建に就職し、現在まで、50年間に亘って設計活動を中心に続けている。その基本思想は氏が語る「人間と自然との対話」や「地域風土によって建物の形態は変わる」に表現されている。この考えは数々の作品に結実し、その結果いくつも賞を受賞している。

代表作の多くはコンペによる獲得で、那覇市民体育館、具志川市役所、読谷文化センター、那覇市庁舎などがある。沖縄県立公文書館は南国の灼熱を避け、通風を配慮した作品として評価されている。南国独特の木陰に緑を加えた「光と風と緑の建築」がレジデンシャルホテルムーンビーチで見事に造形化され、人々に喜びを与えていている。那覇市庁舎では「みどりあふれる庁舎をみんなでつくる～亜熱帯庭園庁舎の提案～」をテーマに緑と建築を融合させた。最も高い評価を受けた作品に海洋博記念公園沖縄美ら海水族館がある。世界最大のアクリルガラスを用いた水槽は見事である。

国場氏は沖縄に大きな足跡を残し、沖縄の建築文化を高めた。氏の精神的支柱には早稲田大学建築学科での学びがあった。数々の受賞に加えて、長年の設計活動を讃へ稻門建築特別賞（業績）を推薦する次第である。

（推薦者 稲門建築会九州支部）

## 【略歴】

1939年 沖縄県那覇市に生まれる  
1963年 早稲田大学第一理工学部建築学科卒業  
1963年 大高建築事務所入所  
1967年 株式会社国建入社  
2003～2007年 日本建築家協会（JIA）沖縄支部長  
2016年 JIA名誉会員  
2016年11月現在 国建 名誉会長  
2016年12月 逝去

## 【主要作品】

1975年 レジデンシャルホテルムーンビーチ（JIA25年賞 2002年）  
1980年 ホテルサンコースト（日事連建築賞・会長賞 1980年）  
1995年 沖縄県公文書館（BCS賞 1995年）  
2002年 沖縄美ら海水族館（日事連建築賞・優秀賞（2004年）・（公共建築賞・特別賞（2006年）  
2012年 那覇市庁舎（第一回沖縄建築賞審査委員特別賞（2015年）  
2016年 沖縄タイムス賞正賞（文化賞）受賞・・・建築設計界からの初受賞

